輝く日本人 in Myanmar

第 21 回　(認定)特定非営利活動法人 ジャパンハート
役職:Managing Director　百瀬　雄太さん

Q1. 百瀬さんは、ミャンマーでどのような活動をされているのでしょうか？

ジャパンハートは、2004 年に設立された日本発祥の国際医療ボランティア団体です。「医療の届かないところに医療を届ける」を基本理念に、アジアの途上国へ日本の医療者を派遣し、無償で治療を行っている認定 NPO 法人です。

ジャパンハートのミャンマー事業は、医療と社会福祉活動を中心に展開しています。医療活動では、ワチェ慈善病院における無償での手術活動と、ミャンマーにおける先進医療の提供(2019 年 3 月にはミャンマーで初となる小児生体肝移植を実施予定です)。社会福祉活動においては、養育施設 Dream Train の運営と、視覚障害者自立支援事業が業務の核です。その他、2008 年のナルギス被災地支援や、ミャンマー医療者育成奨学金事業、また現在は、透析施設の開設、遠隔医療を使用した地方での医療活動の可能性等を探っています。

〈ワチェ慈善病院での医療活動〉

〈養育施設 Dream Train〉

医療、社会福祉、新規事業検討と様々なプロジェクトを行っていますが、私自身特に力を入れているのが、視覚障害者自立支援です。ジャパンハートは視覚障害者の支援として 2010 年から職業訓練に力を入れ始めましたが、現在はミャンマー政府とともに政策委員会を立ち上げ、視覚障害者に関する法律/政策立案を行っています。委員会では、社会福祉省の事務次官が議長で、私は副議長をやらせていただいています。

ジャパンハートに入ってから強く実感したのは、ミャンマーのようないわゆる発展途上国では、医療がない、食糧がない、教育がないのと同じように、必要な法律もなければ、政策もないということです。世の中では、医療、食糧、教育など、一般に国際援助として考えられているものだけでは救われない部分があり、政策でしか守っていけないような人々もいる、ということが分かりました。

先進国では視覚障害者をはじめ、あらゆる障害者、社会的弱者を守る法律や政策がしっかりしているのですが、ミャンマーではそうしたセーフティーネットがないため、多くの視覚障害者が、社会に出ず、何もせずに家にいるという状況が続いています。ミャンマーも 2016 年に政権が変わって以降、いろいろな

分野でルール作りが積極的に進められており、ちょうど障害者の自立支援の領域でも様々な検討や見直しが進んでおり、ジャパンハートはその幹事としてかかわっています。

障害者の社会参画にはいくつかの段階があるのですが、まずミャンマーにおいては、特定の仕事に対し、政策的に職業優先を与えて、まずは社会に参画する視覚障害者を増やすということが重要と考えられております。歴史的にも科学的にも、医療マッサージが視覚障害者の能力を最大限に発揮できる職業と考えられているので、視覚障害者の適職と見なされています。実際に日本も含め、アジアの国々では、医療マッサージ分野への就労に関し、一定の範囲で視覚障害者が優先されるような法律が存在します。特にミャンマーは、他国に比べ、自立の方法として医療マッサージに依存している傾向が強く、視覚障害者の 8 割が医療マッサージを行っているといわれています。晴眼者のマッサージ店も増える中、医療マッサージを視覚障害者の社会参画の第一歩にしていきたいという想いから、現在こうした政策の立案を行っています。具体的には、他国での法律などを比較し、論点を1つずつ吟味し、ミャンマーに最適な手法を、前述の委員会にて議論していくということを行っています。

〈社会福祉・救済復興省大臣とのミーティング〉

〈視覚障害者に関する政策立案委員会〉

Q2. 仕事をする上で百瀬さんが大切にしていることは何ですか？

ミャンマー社会は急速に変わっています。そうした中で、今のミャンマーのニーズを捉えたプロジェクトを作っていきたいと思っています。

ジャパンハートが活動を始めた 2004 年は、軍事政権の只中でした。50 年におよぶ軍政により国の経済は疲弊していましたし、軍政という事情から外国の援助も極端に入りにくい時代でした。しかし、2010 年に民政移管され、2016 年にアウンサンスーチー氏率いる国民民主連盟が政権をとりました。国は民主化され、外国援助も外国投資も多くなり、経済も少しずつ発展してきました。そうした中で、2004 年当時のミャンマーのニーズと、現在の 2019 年のミャンマーのニーズは違ってきています。

医療においては、「草の根医療」として誰しもを救っていくだけではなく、先進医療のニーズも増えています。加えて、Dream Train のような養育施設にしても、同じような養育施設が増えている今日、ミャンマー教育の大きなニーズとして、ミャンマーをリードしていく人材の育成が求められていると思い、そうしたビジョンを掲げています。先ほどの視覚障害者の法整備もそうですが、急速に国が変わる今、ミャンマーの国としての発展段階に応じて、必要なプロジェクトを提供できる団体になれるよう、常に考えています。

Q3. 今後はどのような活動を展開される予定でしょうか？今後仕事でやってみたいことを教えて下さい。

先ほどの視覚障害者の法整備/政策立案を成し遂げたいと思っています。ミャンマーに初めて障害者を優先する具体的な法律となると思うので、それが 1 つ初めて成立すると、これから障害者の社会参画がどんどん進んでくるのではないかと思います。国の法律を作ったとなると、ミャンマー国内に与える影響も

大きく、多くの人の状況が、結果としてよくなれば嬉しいと思っています。そこに至るまでには、社会福祉省だけではなく、国会や立法府といった、各種関係機関との調整も必要になってきます。そういうチャレンジを乗り越えて、ミャンマーが福祉国家であるといわれるような政策を作っていきたいと思います。

医療に関しては、ジャパンハートとしても草の根医療以外に、現在国が力を入れている先進医療に注力しています。特に、ミャンマーでこれまで経験のない症例、つまりこれまではミャンマーでそうした病気になると、海外に行くしか治療方法がなかった症例に対して、その治療成績を高めていこうという取り組みを、ミャンマー保健省が目標に掲げています。ジャパンハートもその中で、ミャンマーにおいて初となる小児生体肝移植を、九州大学の専門チームと連携し、2019 年 3 月に行います。

〈地方での医療状況の調査〉

〈主な活動地のワチェ慈善病院〉

ミャンマーの食生活を考えると、高血圧、糖尿病が多く、結果として腎不全になるケースも多いので、ジャパンハートとして透析施設を設立したいと思っています。また政府は、昨年よりタブレット等を利用した医療の導入も検討しています。ジャパンハートの持つ医療ネットワークを使って、タブレット等を利用した地方での医療環境の向上も実現できたらと思っています。

そして、そうしたプロジェクトに対して、日本からだけではなく、今後はミャンマー国内の寄付をしっかり集めた上でのプロジェクト運営をしていきたいと思います。ミャンマーの寄付文化は世界一といわれています。まずはそうしたところで人々に訴えていきながら、将来的には、寄付文化が世界一というメンタリティが体現されているような何か、例えばミャンマー人の寄付だけで運営できる病院、透析施設、また弱者に優しい政策・法律などを作っていけたらと思っています。

〈社会福祉・救済復興省大臣との MTG〉

〈百瀬　雄太　プロフィール〉
2016 年よりジャパンハート入職、ジャパンハート ミャンマー事業 Managing Director 前職は経営コンサルティングファームでコンサルタントとして勤務。愛知県出身

※問い合わせ E-mail : y.momose.japanheart@gmail.com
ホームページ　：　https://www.japanheart.org/

企画：ヤンゴン日本人会　広報担当